

**製品名: UBP34 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19570**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	390kDa

**抗原情報**

遺伝子名	USP34
別名	KIAA0570 KIAA0729
遺伝子 ID	9736.0
SwissProt ID	Q70CQ2
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

**背景**

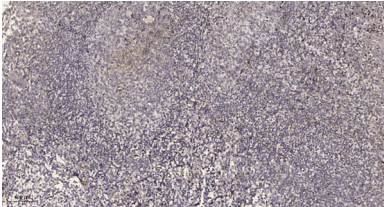
触媒活性: ユビキチン C 末端チオエステル + H<sub>2</sub>O = ユビキチン + チオール。機能: ユビキチンの C 末端グリシン残基におけるペプチド結合を認識し、加水分解する。ユビキチン化されたタンパク質だけでなく、ポリユビキチン前駆体のプロセッシングにも関与す

る。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、類似性: ペプチダーゼ C19 ファミリーに属する。、組織特異性: 脳で低レベルで発現している。、触媒活性: ユビキチン C 末端チオエステル + H(2)O = ユビキチン + チオール。、機能: ユビキチンの C 末端グリシン残基におけるペプチド結合を認識し、加水分解する。ポリユビキチン前駆体およびユビキチン化タンパク質の処理に関与する。、PTM:DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。、類似性:ペプチダーゼ C19 ファミリーに属する。、組織特異性:脳で低レベルで発現する。、

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。